セゾンマルチシリーズ　据付説明書・電気配線工事説明書

FDTWJ(P)　22HKXD1～56HKXD1, 71HKXD2～160HKXD2

PJB012D205A

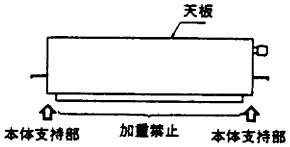
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気工事の方法は、裏面をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
リモコンは別売です。

お願い

○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
▶潮風が当る所。（海浜地区）外板、熱交換器の腐食の原因となります。

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
▶据付けに不備があると振動運転音増大の原因になります。
▶ユニットは、据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
▶解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット天板を下（梱包時の向き）にして置いてください。
▶やむをえずユニットを逆向きに置く場合は、右記の本体支持部以外に荷重が加わらないように注意してください。
（中央部に重荷を加えるとエアフィルタ等を破損する恐れがあります。）
▶リフトを使用する場合は、ユニットを本体支持部（右図参照）で支えるように置き板（平板）等を準備してください。
○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。

○溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水洩れにいたる可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は、十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、おおいなどにより必ずカバーをしてください。



工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

〈付属品〉（ユニット内に付属しております。フィルターを外し取り出してください。）

フレアナット部断熱用

1	パイプカバー	1個	ガス管用
2	パイプカバー	1個	液管用
3	バンド	4個	パイプカバー用

本体吊り込み用

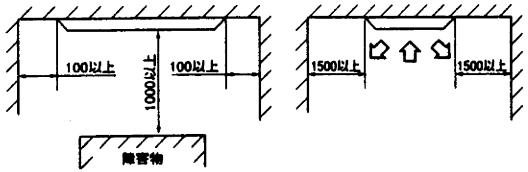
1	平座金（M10）	4個	ユニット吊り下げ用
2	型紙	1個	
3	ボルト	4個	型紙取付用

ドレン配管用

1	パイプカバー	2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース	1個	
3	ホースクランプ	1個	ドレンホース用

②室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



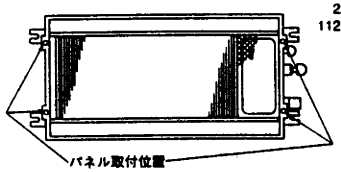
1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
   - ●冷風または温風が十分行きわたる所。
     据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
   - ●室外への配管、配線のしやすい所。
   - ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
   - ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
   - ●直射日光のあたらない所。
   - ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
     （本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。
     そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）
2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

③吊り込み

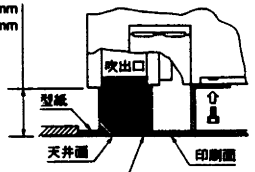
○吊りボルトは、M10またはW3/8を4本使用し、1本当り50kgfの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
吊りボルト長さは、天井面より95mm程度としてください。

A.天井がある場合

1. 据付場所に天井開口寸法の穴をあけてください。
2. 所定の位置に吊りボルト（現地手配）を設置してください。
   （埋吊りボルトピッチ中心はパネル中心からずれていますので、ご注意ください。）
3. ユニット吊り込み後、付属の型紙をボルト（4個）でパネル取付け部に取付け、下記方法で高さ調整してください。（天井下面からユニット下面までの長さ：22～90H　63mm、112～160H　67mm）
4. 水準器、または透明ホースに水を入れたものを使用してユニットの水平度を確認してください。
   水平度がでていないと水漏れ、フロートスイッチの誤動作等の原因になります。
5. 上記確認後、ユニットを固定してください。



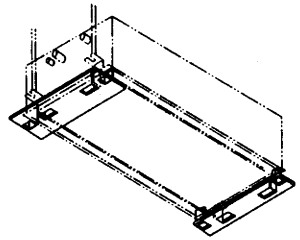
〈パネル取付位置〉



型紙下面と天井下面が合うように本体の位置を調整してください。
（112～160Hは型紙下面が天井下面より4mm上がります。）

B.天井後貼りの場合

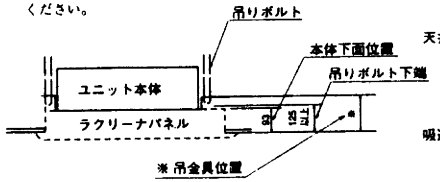
1. 上記A-2～4により、ユニットを据え付け、型紙を取付けてください。
2. 天井施工時に型紙外周を参考に天井開口をあけてください。
3. 据付高さと水平度を確認後、ユニットを固定してください。



〈型紙取付状態〉

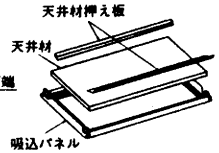
ラクリーナパネル（PSL）天井材はめ込パネル（PSB）の場合

▶ 標準パネル時よりも30mm高い位置にユニット本体を据付けてください。



22 ～ 90形	150
112 ～ 160形	160

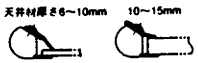
天井材はめ込パネルの場合（PSB）の場合



- ●吸込パネルをパネル本体から取りはずしてください。
- ●吸込パネルにビス止めされた天井材押え板（2個）をはずしてください。
- ●天井材を吸込パネルに取りつけ、天井材押え板にてガタつきのないように固定してください。
  ▶ 天井材は厚さ6～15mm、一辺300mm以上をお使いください。

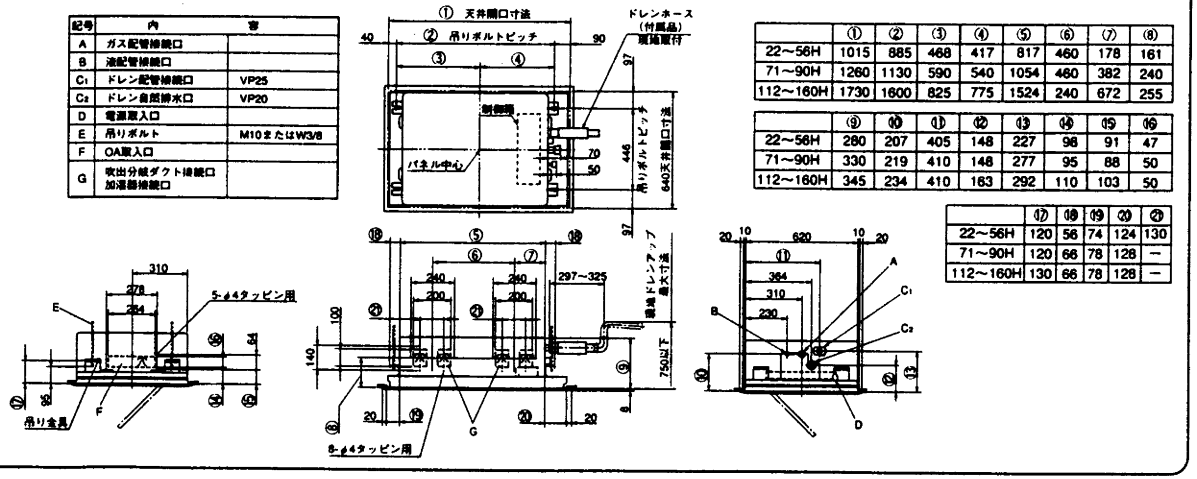
●天井材寸法　(mm)

	22～56形	71～90形	112～160形
幅	300	300	300
長さ	970	1215	1685



〈天井材押え板取付方向〉

記号	内容	
A	ガス配管接続口	
B	液配管接続口	
C_1	ドレン配管接続口	VP25
C_2	ドレン自然排水口	VP20
D	電源取入口	
E	吊りボルト	M10またはW3/8
F	OA取入口	
G	吹出分岐ダクト接続口 加湿器接続口	



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
22～56H	1015	885	468	417	817	460	178	161
71～90H	1260	1130	590	540	1054	460	382	240
112～160H	1730	1600	825	775	1524	240	672	255

	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
22～56H	280	207	405	148	227	96	91	47
71～90H	330	219	410	148	277	95	88	50
112～160H	345	234	410	183	292	110	103	50

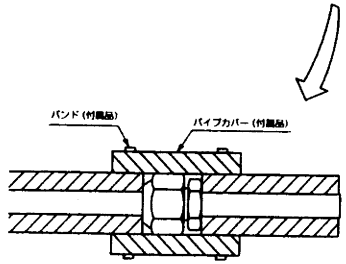
	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑
22～56H	120	56	74	124	130
71～90H	120	66	78	128	—
112～160H	130	66	78	128	—

④冷媒配管

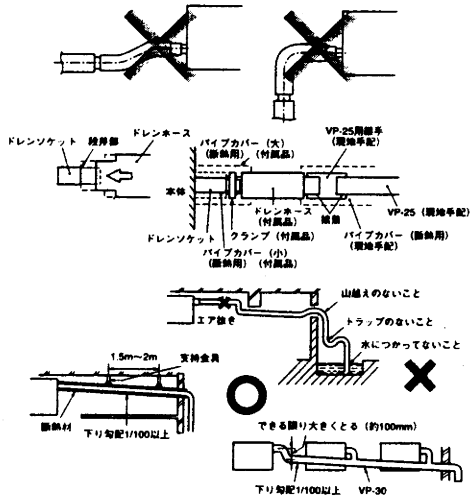
冷媒配管工事については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の鋼手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

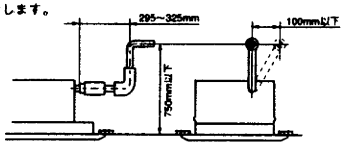


⑤ドレン配管



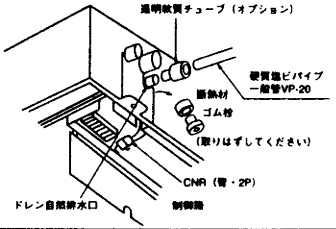
●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり引っぱって使用された場合、破損し、水モレに至る場合があります。
●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
●付属のドレンホース（軟質塩ビ端）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
●ユニット吊下げ前にドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP-25（現地手配）を接着・接続してください。
●接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキ部に力が加わった場合フレキ部が破損し、水漏れする恐れがあります。
●ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
●ドレン配管を接続する場合、ユニット側の配管に力を加えないように注意し、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。
●複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。

ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

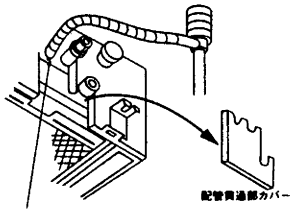
ドレン自然排水口を使用の場合



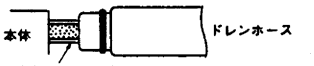
●結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
・ドレンソケット部
パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。
・室内にある硬質塩ビパイプ
●ドレン配管の出口高さは、天井面より75cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。
●ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
●ドレン配管はイオウ系ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。
●ドレン自然排水口の断熱材とゴム栓を取りはずします。
●自然排水用接続チューブ（オプション）を使用して、ドレン管（VP-20）を接続し、クランプで完全に締付けてください。
（※ドレン自然排水口にドレン管を直接接続すると、ドレンパンがはずれなくなります。）
●制御箱内にあるドレンモータ用コネクタCNR（青・2P）を取りはずしてください。
（※コネクタを接続したままで使用すると標準ドレン配管接続口よりドレン水が排出され、水漏れとなります。）

排水テスト

●試運転時に排水が確実に行われていることと、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
●新築の場合には天井を張る前に実施してください。



給水ポンプの先端を50mm程度、下向きに差し込んでください。



透明ソケットで排水状況を確認できます

1.本体吹出部より給水ポンプなどを使用して本体ドレンパンの中へ約1000c.c.ほど注水してください。
2.ドレン排水しているか排出口部（透明部分）でご確認ください。
※ドレン排水用電動機の回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
3.ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。

※ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

ドレンポンプ強制運転方法

●室内機基板上のディップスイッチSW5-3をONにしてください。
ドレンポンプが連続運転します。
●排水テスト後は、必ずディップスイッチをOFFに戻してください。

（電気工事が終了していない場合は排水管つなぎ込み部に凸形断手を接続し注水口を設けて配管系統のもれ及び排水状況の確認してください。）

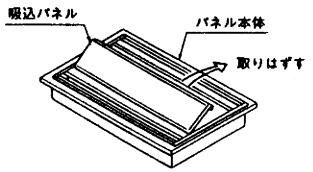
⑥パネル取付け

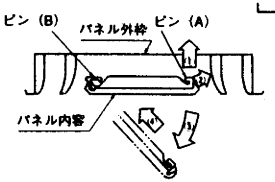
（パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。）

22～90Hの場合

（※パネル吹出口部は爪を立てるとへこみやすいので取扱いには十分注意してください。）
1. 本体付属の型紙で本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
▶ 型紙はパネル取付前に取りはずしてください。
吹込パネルをパネル本体から取りはずしてください。（下図参照）
2. パネルに付属のボルト4本のうち、2本を本体側取付部に対角に5mm弱ねじ込みます。
3. 2本のボルトにパネルをひっかけ、仮止めをしてください。
4. 仮止めしたボルト及び残りのボルト（2本）を締めつけてください。
5. ルーバーモータ用コネクタ（白-3P）とリミットスイッチ用コネクタ（白-2P）をそれぞれ接続してください。（オートスイングなしは不要）
6. リモコン操作でルーバーモータが作動しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を10秒間以上切り、リセットしてください。

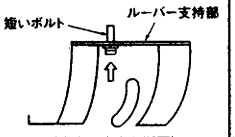
（吸込パネル脱着方法）





112～160Hの場合

1. 長いボルト（35mm. 4本）を用いて22～90Hの場合の1.～4.行程をおこなってください。
2. 短いボルト（15mm. 2本）にて、左右吹出口中央のルーバー支持部（下図）を締めつけてください。
3. 22～90Hの場合の5.～6.行程をおこなってください。



（吹出口中央部断面）

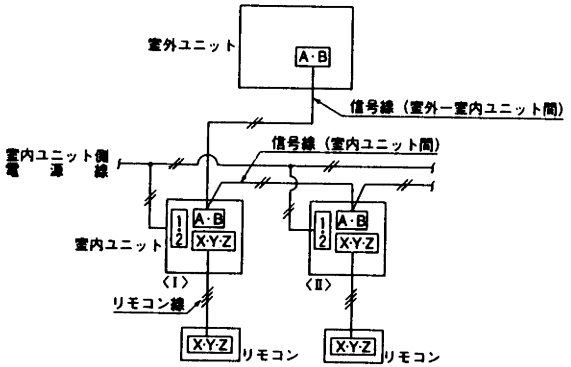
電気配線工事説明書

電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線接続

配線系統図

〔室外・室内ユニット接続要領〕



記事１．本配線仕様は、
1）電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源
2）電気ヒータ（別売品）含まず
にて記載してあります。
注）別売の電気ヒータを組込む場合は、電源仕様、配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。

２．電源仕様

(50/60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	配線用遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器 感度電流 (mA)	漏電遮断器 動作時間 (sec)
7以下	20	20A	30mA	0.1sec以下
11以下	20	20A	30mA	0.1sec以下
12以下	20	20A	30mA	0.1sec以下
16以下	30	30A	30mA	0.1sec以下
19以下	40	40A	30mA	0.1sec以下
22以下	40	40A	30mA	0.1sec以下
28以下	50	50A	100mA	0.1sec以下

３．配線仕様

(50/60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	電源用配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	信号線太さ 室外ー室内 (mm²)	信号線太さ 室内ー室内 (mm²)
7以下	2	21	0.75～2.0 ×2本	0.75～2.0 ×2本
11以下	3.5	21		
12以下	5.5	33		
16以下	5.5	24		
19以下	5.5	20		
22以下	8	27		
28以下	8	21		

注）(1) こう長は合計電流値の最大値で記載してあります。
(2) 室内ユニット接続線は5.5mm²まで可能です。8mm²以上は専用プルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
(3) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。上表の配線こう長を越える場合は、内線規定に従い配線太さを見直してください。

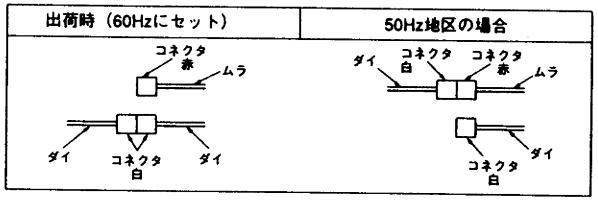
冷暖フリーマルチ（224H, 280H, 560H）の場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

送風装置タップ切換 (112～160Hのみ)

〈お願い〉 ●50Hz地区でご使用の場合は、室内モータ用キャパシタのコネクタを50Hz側に差し替えてください。（コネクタは制御箱から離れた側のファン吸込口の横に有ります。）



② アドレス設定

（1）自動アドレス設定　（2）手動アドレス設定　（3）リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
なお、（3）リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線

リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

1) 直射日光の当る場所　　2) 発熱器具の近く
3) 湿気の多い所・水の掛る所　　4) 取付面に凸凹がある所

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

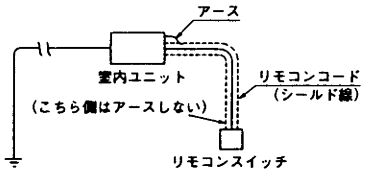
コードは必ずシールド線を使用してください。

●全形式：0.3mm²×3心（MVVS）

注（1）延長距離が100mを越える場合は下記のサイズに変更してください。

100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心

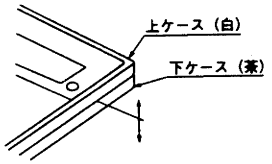
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



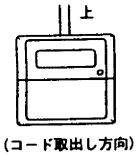
取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●側面上方の上ケース（白）と下ケース（茶）に爪を掛け溝を広げはずします。

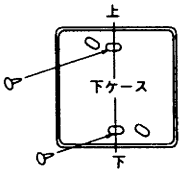


②リモコンコードの取出し方向は、下図のように上方向のみ可能です。



●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

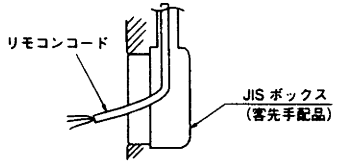
③リモコン下ケースを付属の木ネジ2本で壁に取付けます。



④リモコンコードを端子台に接続してください。室内ユニットとリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子台には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
⑤室内機の機種に応じて機能の設定をしてください。
機能の設定 の項をご覧ください。
⑥上ケースを元通り、下ケースにはめ込みます。
⑦リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

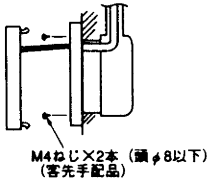
埋込取付

①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。

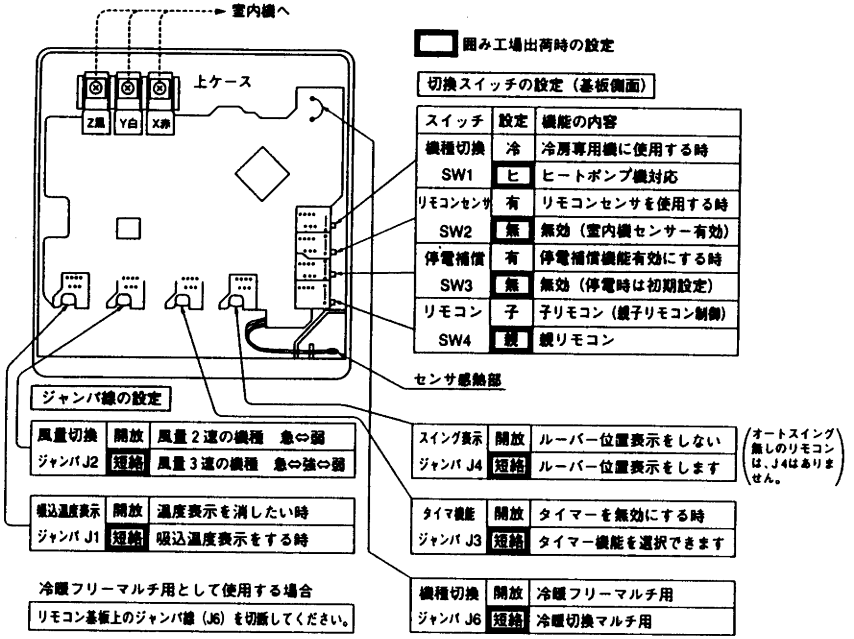


〔使用可能JISボックス〕
● JIS C 8336　1個用スイッチボックス（カバーなし）
2個用スイッチボックス（カバーなし）

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下：客先手配品）でJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
注）露出取付け の項をご覧ください。
⑤室内機の機種に応じて機能スイッチの設定をしてください。
機能の設定 をご覧ください。
⑥上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。



機能の設定



■ 囲み工場出荷時の設定

切換スイッチの設定（基板側面）

スイッチ	設定	機能の内容
機種切換 SW1	冷	冷房専用機に使用する時
	ヒ	ヒートポンプ機対応
リモコンセンサ SW2	有	リモコンセンサを使用する時
	無	無効（室内機センサー有効）
停電補償 SW3	有	停電補償機能有効にする時
	無	無効（停電時は初期設定）
リモコン SW4	子	子リモコン（親子リモコン制御）
	親	親リモコン

ジャンパ線の設定

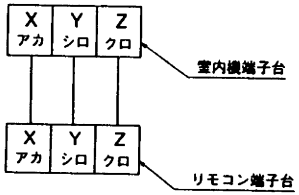
風量切換 ジャンパ J2	開放	風量2速の機種　急⇔弱
	短絡	風量3速の機種　急⇔強⇔弱
吸込温度表示 ジャンパ J1	開放	温度表示を消したい時
	短絡	吸込温度表示をする時
スイング表示 ジャンパ J4	開放	ルーバー位置表示をしない
	短絡	ルーバー位置表示をします
タイマ機能 ジャンパ J3	開放	タイマーを無効にする時
	短絡	タイマー機能を選択できます
機種切換 ジャンパ J6	開放	冷暖フリーマルチ用
	短絡	冷暖切換マルチ用

（オートスイング無しのリモコンは、J4はありません。）

冷暖フリーマルチ用として使用する場合
リモコン基板上のジャンパ線（J6）を切断してください。

リモコンと室内の配線

●リモコン配線は極性があります。必ず同一端子台No.同士接続してください。

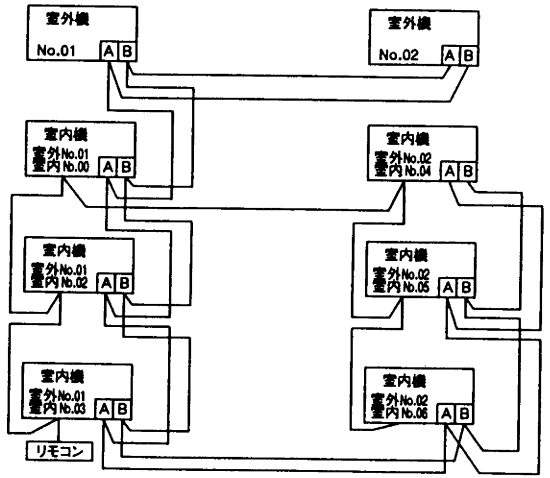


リモコン複数台制御

配線要領

●グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。（3本）
■室内ユニットリモコン用端子台ＸＹＺに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
■配線は0.5mm²以上を使用してください。（配線の引廻しに耐えるもの）
■渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
●室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
■室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。

●下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
●1つのリモートコントローラで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。



室内機運転電流（50/60Hz）

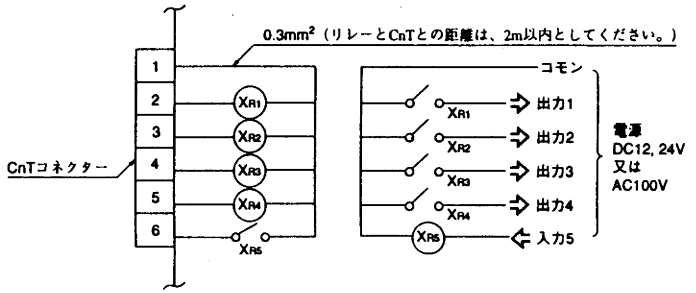
	22～56	71	80～90	112	140	160
ヒータレス(A)	0.53/0.63	0.5/0.63	0.6/0.73	1.05/1.15	1.20/1.45	1.20/1.45
ヒータ電流	単相 5.25A	3相 6.64A		3相 7.8A		

④ 制御の切換

室内機の制御内容を、下記方法にて切換可能です。

	制御切換方法	制御切換内容
室内機	室内基板〔SW-5〕のNo.1をON	遠方発停入力（CNT-No.6）切換 出荷時…レベル入力（反転できない） ↓ 切　換…パルス入力（反転）
	室内基板〔SW-5〕のNo.2をON	暖房時設定温度＋3℃
	室内基板〔SW-5〕のNo.3をON	ドレンモータ運転
	室内基板〔J-2〕切断	オートスイング4位置制御ナシ（フリー位置制御）
	室内基板SW-6のNo.1～4のON・OFFを切換える。	機種 / 22H / 28H / 36H / 45H / 56H 1 / 0 / 1 / 0 / 1 / 0 2 / 0 / 0 / 1 / 1 / 0 3 / 0 / 0 / 0 / 0 / 1 4 / 0 / 0 / 0 / 0 / 0 0はOFF、1はON
	室内基板〔J-3〕切断	暖房サーモOFF時に室内ファンが停止する。
	室内基板〔J-4〕切断	フィルタサイン無効（検知しない）
	室内基板〔J-5〕切断	運転許可禁止制御
	室内基板SW-9のNo.1,2のON・OFFを切り換える（4方向吹出し、4方向吹出しコンパクト 2方向吹出し）	オートリフトパネルの昇降長さの設定 50Hz地区：SW9-1 / SW9-2 60Hz地区：SW9-1 / SW9-2 1.3m：ON / OFF / OFF / OFF 1.6m：OFF / ON / ON / OFF 2m：ON / ON / OFF / ON
	室内基板〔J-1〕切断	高天井制御（ファン回転数アップ）

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



●$X_{R1\sim4}$はDC12Vリレー（オムロンLY2F相当品）
●X_{R5}は、DC12, 24V又はAC100Vリレー（オムロン製MY2F相当品）
●CnTコネクター（現地側）メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端　　子	モレックス	5263T

●機　能

出力1	エアコン運転出力（エアコンON時X_{R1}＝ON）	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力（サーモON時X_{R3}＝ON）	
出力4	エアコン点検出力（エアコン点検時X_{R4}＝ON）	
入力5	出荷時	X_{R5} OFF⇒ON　エアコンON
		X_{R5} ON⇒OFF　エアコンOFF
	現地切換（SW5のNo.1をON）	X_{R5} OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

●冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。
●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ 試　運　転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑦ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 工事完了後のチェック項目

- ☐ 電源電圧は本体表示と同じですか。
- ☐ 室外機側でアース工事はされていますか。
- ☐ 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- ☐ 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。